

Press Release

眼球運動のストレッチ器具「BinoStretch」を開発

死角をなくす「気くばりミラー」を製造販売するコミー株式会社（埼玉県川口市 代表取締役社長 小宮山 哲）は、北里大学医療衛生学部視覚機能療法学 半田知也教授監修のもと、眼球運動のストレッチ器具「BinoStretch（バイノストレッチ）」を開発しました。

BinoStretchは自然に中間から近方での「輻湊（^{ふくそう}寄り目）」運動を行える紙製のストレッチ器具として開発されました。中央に引かれた中心線上にあるいくつかのターゲットを見つめることで、効果的に両眼を寄せる輻湊運動を行うことができます。

人の両眼の本来の位置（安静位）はやや外向きに位置しており、その角度は人によって様々です。輻湊運動は外向きにある眼を正面に位置させるために大切な眼球運動です。外向き角度が大きく、適切な輻湊運動が行い難い場合は、疲れ目などの原因となる可能性があります。BinoStretchはこの大切な輻湊運動のストレッチを行うことができます。

また、ストレッチは継続して行うことが重要であるため、愛着がわきやすいペーパークラフトスタイルや電車デザインを採用し、子どもが嫌がらずに、毎日楽しくストレッチを行える工夫を随所に施しています。

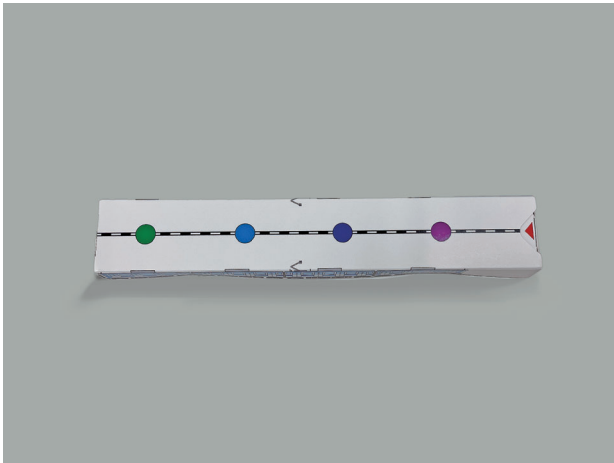
さらにコミー株式会社製の軽量プラスチックミラー「CAミラー」を装着することによって、眼球運動のストレッチ距離が2倍になり、中間距離からの眼球運動のストレッチが行えます。

PC作業などのディスプレイの理想的な距離は中間視（70cm）程度であり、中間視は眼に無理な負担を与え難い距離と考えられます。CAミラーをBinoStretchに装着することで、これまで困難であった、中間視でのストレッチが子どもでも簡単に行えると眼科医療関係者にも評判です。

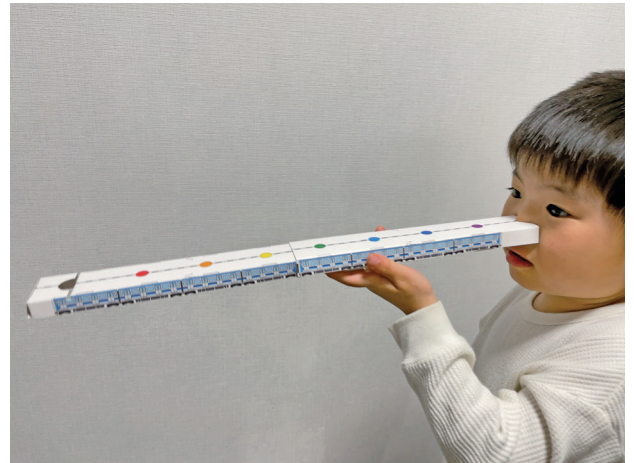
BinoStretchは株式会社リッツメディカルより好評発売中です。

・商品紹介ページ：<http://ritz-med.co.jp/product/6089/>

■商品写真・使用例



BinoStretch本体(収納時:長さ約23cm)



使用イメージ(伸長時:長さ約43cm)



眼球運動のストレッチ距離を2倍にする「CAミラー」(別売)



CAミラー(別売)装着イメージ

■動画資料



組み立て方の説明



使い方の説明